

2004年度 B l o c k . 5

課 題 N o . 5

「顔の赤い相沢さん」



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

## シート1

相沢圭子さんは医学部4年生です。最近顔に赤い斑点があることに気づきました。ややびりびりした痛みと若干の痒みもありました。相沢さんは化粧品をかえたので、それでアレルギーを起こしたのかしらと思いましたが、この赤い斑点がいったい何なのか見当もつかず、図書館で調べるにしても何をみたらいいのかしらと考えていました。

## 【抽出を期待する事項】

皮疹

痛み

痒み

アレルギー

接触皮膚炎

情報収集の仕方（アトラスの活用）

シート2

自分の所属する大学病院の皮膚科を受診したところ、初診の先生が顔の赤い斑点をみて、肘、膝、手や頭皮など他の部位も診察し、「爪の周りが赤いね。毛が抜けやすいね。」と言ったのを聞いて、顔と何か関係あるのかしらと疑問に思いました。また、熱や体のだるさはないかと聞かれ、そういえば最近微熱や関節痛があることを話しました。その後、皮膚生検を受けた方がよいといわれたので驚き、いったいどんなことを言われるのかしらと不安になりました。

担当医は加藤先生になりました。

加藤先生は初診医より、相沢さんの今後の検査方針を立てておくように指示されました。

【抽出を期待する事項】

皮疹

爪囲紅斑、脱毛、発熱、関節痛を認める全身疾患

全身疾患と皮膚

膠原病の皮膚症状

インフォームドコンセント（皮膚生検など）

病理組織所見（正常組織も合わせて）

担当医のつもりで今後の方針を考える（検査データを要求できる）。

## シート3

- <患者> 22歳、女性(医学部4年生)
- <初診> 2003年8月17日
- <主訴> 顔面、爪囲の紅斑、易脱毛性、微熱、関節痛
- <家族歴> 特記すべきことなし。
- <既往歴> 特記すべきことなし。
- <現病歴> 2003年7月上旬より顔面の紅斑が出現した。また、8月に入って、37℃台後半の熱と手指の関節痛が続いている。初診時、爪囲の紅斑と脱毛を指摘される。
- <現症> 資料1. 参照
- <病理組織所見> 資料2. 参照。
- <血液・尿検査> 資料3. 参照
- <胸部X線> 資料4. 参照

## 【抽出を期待する事項】

- 病理組織所見(蛍光抗体直接法を含め)
- 白血球減少
- 免疫異常
- 胸部X線(胸水貯留)
- 全身性エリテマトーデス(SLE)

シート4

相沢さんは担当医から膠原病を疑っていることを告げられました。大学でも講義はありましたが、インターネットでも調べてみたところ、腎臓や心臓などの内臓病変を合併し、なかには腎不全になっている患者さんもいることを知り、気持ちが沈んでしまいました。

内科にも受診し、最終的に全身性エリテマトーデスと診断され、担当医から疾患についての十分な説明を受けた後、プレドニゾン 30mg/日（体重46kg）の内服が開始されました。

治療開始して1ヶ月たった頃、左腰に痛みを伴った別のプツプツが出現しました。隣の患者さんも膠原病で免疫抑制剤を内服中であったため、担当医から2人部屋から個室に移るように指示されました。

【抽出を期待する事項】

情報収集の仕方（インターネットの活用）

患者の心のケア

全身性エリテマトーデス（SLE）

インフォームド・コンセント（治療前の）

ステロイドの副作用

治療中（免疫抑制状態時）の合併症（感染症、感染対策を含め）

帯状疱疹

シート5

相沢さんは当初、自分がどうして膠原病なんかにかかってしまったのだろうかと、今後の長い治療生活や内臓合併症のことを考えるだけで気持ちが沈んでいました。しかし、担当医から繰り返し説明を受け、まわりのサポートもあり、今は治療に専念しています。

経過は順調ですが、退院後、大学の授業にすぐ出席できるのか不安に思うことが時々あります。

【抽出を期待する事項】

患者の心のケア

患者の社会復帰